

◆新技術定着試験

沖縄産ヒジキ養殖試験

瀬 底 正 武

1. 要約

1) 平成14年度の予備試験、平成15年度の本試験の結果、藻体結着法による養殖は良い成果は得られなかった。

2) 最終年度の試験の主眼は藻体がロープから抜けられない方法を考え、再試験を行った結果、連ロープ設置後49日で50cmに達した。

3) これまでの試験では、生育以前の抜け落ち対策が大きな課題であったが、今回の試験では直接ロープへの挟み込みをせず、あらかじめ2mmの紐で数本の藻体を結んでおき、その紐で連ロープに巻き付け固定する方法で行った。

4) 藻体流失対策が可能であれば、ヒジキの養殖はどの海域でも可能であるとは断言出来ないが、ただ言えることは汚されていない比較的きれいな海域であることが生育条件として上げられる。波浪と生育の関係については追試験が必要である。

5) また流失対策が可能であれば、座(仮根)付きでなくても仮根上部部位から切り取った藻体でも生育が可能であることが分かった。

6) 大分県では座付き養殖を行っているが、今回の試験に限っては仮根上部切り取りでも十分に生育が見られたことは画期的な成果である。

7) このような試験を海域毎に数年実施し、沖縄におけるヒジキ養殖の可能性について考察する。

2. 目的

平成14年度、15年度の結果を踏まえ本年度は藻体の流失対策を十分に考慮した養殖試験を行い、ある程度の知見を得たのでその概要について報告する。

3. 材料及び方法

- 1) 試験実施に当たっての協力者
 - ・糸満漁協豊見城市養殖生産部会
 - ・試験協力者 高良利夫氏

- ・水産業改良普及員

山田真之、城間一仁

- 2) 実施時期及び実施場所

- ・実施時期

平成16年12月～平成17年3月

- ・実施場所

母藻採取、具志川市宇堅海域

側張り設置、瀬長海域

4. 試験経過及び結果

- 1) 試験内容(施設の設置状況)

試験方法は、図-1に示されるように12mmのオレンジフロートで水面上に浮かす「ベタ流し養殖」方法で実施した。試験連は座(仮根)部位上部より切り取った数本の藻体を2mmの紐で結び、その紐で直接連ロープに巻き付け固定する方法で行った。

- 2) 試験経過及び結果

12月10日、ヒジキ藻体結着の際藻体の大きさを知る必要があり生育調査を具志川市宇堅海域で実施した。大きさは平均25cm前後に達していた。

12月16日、側張り設置作業の実施。今回は豊見城養殖生産部会が瀬長のリーフよりに設置した。12月21日、藻体連結着作業の実施。母藻は具志川市宇堅海域の天然ヒジキを採取した。藻体の連結作業は水産試験場飼育棟内で行った。藻体結着時の大きさは、15cmから20cmであった。前記したように、今回の試験のねらいは、①結着した藻体が連から抜け落ちるか否かを確認することと、②座の部位上部切断による藻体の生育状況調査を主眼に実施した。(昨年度の石川市海域の試験では、大分県のような生長は見られず、3ヶ月で10cm前後の生長に止まり最終的には葉が落ち茎だけになった。)2月8日で49日経過した藻体の生育状況は50cmに達していた。また、試

験の最も重要な部分である、抜け落ち対策についても、今回の結着方法でクリアすることが出来た。以上のような結果から大分県で行われている座付きでない、部位上部切断藻体による養殖の可

能性が見えてきたように思われる。今後、再試験等他地域での生育調査を実施した上で、沖縄におけるヒジキ養殖の可能性について考察する。

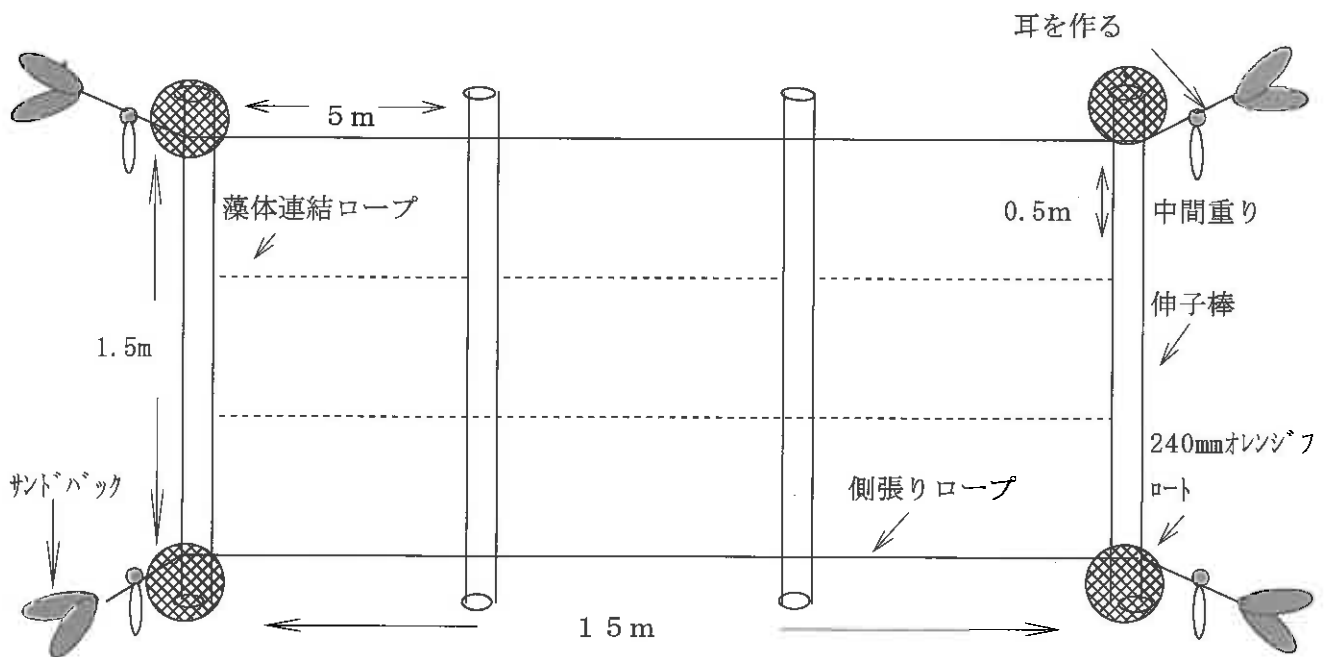
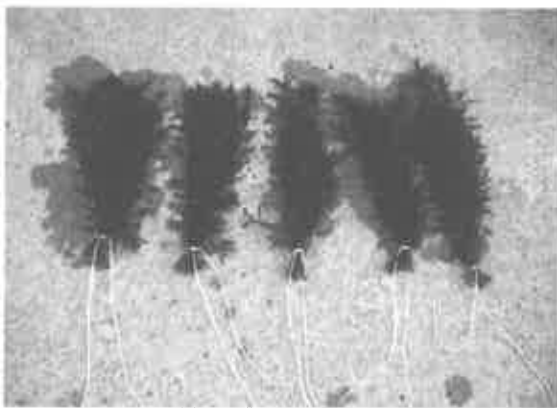


図-1：ヒジキ養殖側張り展開図



①藻体を数本束ねて結ぶ。



②伸子棒による簡易式側張り施設



③49日経過したヒジキ生育状況



④豊見城養殖部会の高良氏